



ART SINCE 1900

図鑑 1900年以後の芸術

ハル・フォスター、ロザリンド・E・クラウス、イヴ・アラン・ボワほか=著
東京書籍 12000円+税

ロザリンド・E・クラウスら「オクトーバー」派の論客たちが中心となって編纂した20・21世紀美術の概説書。世界各国で教科書としても使用される定番の書がここに邦訳された。構成は、1900年から2015年までに起こった美術の重要トピックに詳細な解説と図版、コラムを付し、編年体形式でまとめたというもの。欧米の動向が中心だが、日本の具体やブラジルの新具体主義などへの言及もあり、広い視野からの理解を助けてくれる。同時代に起こった動向、地域を超えた影響関係を検証するためにも手元に置いておきたい1冊だ。(中島)



Cosmo-Eggs | 宇宙の卵

下道基行、安野太郎、石倉敏明、能作文徳、服部浩之=著
LIXIL出版 3500円+税

第58回ヴェネチア・ビエンナーレの日本館展示にあわせて刊行されたコンセプトブック。地球環境が重大な変動期を迎えている現況を惑星的スケールからとらえ直すべく、4人の表現者が人間/非人間の共存するエコロジーをめぐる「宇宙の卵」プロジェクトを展開。美術家・下道基行による「津波石」のフィールドワーク、音楽家・安野太郎による楽曲のスコア、芸術人類学を専門とする石倉敏明の神話創作などを収録。写真、テキスト、創作ノートなど、異なる表現形態にあわせたバイナーファイル形式で非常に凝った造本。(中島)



We Don't Know God

Chim ↑ Pom 2005-2019

Chim ↑ Pom=著
ユナイテッドヴァガボンス 5500円+税

広島空に「ピカッ」と描いたかと思えば、岡本太郎の壁画にドクロ型の黒煙を「加筆」し、福島帰還困難区域では国際展「Don't Follow the Wind」を企画したりと、ゲリラ的かつポップな活動で世間を騒がせてきたアーティスト集団Chim ↑ Pomの最新作品集。結成から現在まで過去14年間の活動を網羅し、ホウ・ハンルーや榎木野衣らによる論考を収録。表現としては荒削りなものもあるが、そのストレートさゆえに「公共性」や「表現の自由」といった社会問題を鑑賞者へ突きつけるパワーを秘めている。(近藤)

REMARKS

1

寺本愛(アーティスト/イラストレーター=表紙)のおすすめ

自分を照らす星、「淋しさ」の存在



小さき者へ・生れ出する悩み

有島武郎=著 岩波書店 460円+税

6月初旬、表参道での用事の後になんとなく青山ブックセンターに立ち寄って、手頃な本でも買って帰ろうとこの本を文庫棚で見つけなければ、その数週間後に東京から九州へ引越したことも「ありがちの事柄」だからと強く心に留めようとしなかったら。いつからか、身に起こる様々な出来事による感情のゆらぎを「大したことではない」と、心のどこか奥のほうへ押し込

むようになっていた。タフになった！わけではなく、「淋しい」という感情からただ逃げているだけだった。ずっと前から心はひどくうねっていた。生きるのは淋しさを重ねていくことだと本当はわかっていて。淋しさがただ逃げて心に残るようにならなければならぬ。すべては「心一つ」で、ただ消えゆく水の泡のようにも、いつまでも自分を照らしてくれる星にもなる。